

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム 杉の木 2階ユニット		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町704		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年10月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0191513704-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 24時間医療連携がとれる体制を整えている 地域の食材、特に旬の物を利用した手作りの料理を提供している 介護が画一的にならないように個々の入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心掛けている ご家族様も参加できるような催し物を企画、開催している 地域の方々が催し物へのお誘いや家庭菜園の手入れなどで協力して下さる 内装は地元の杉材を利用し、落ち着いた雰囲気統一している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR函館駅より車で約1時間、木古内駅より整然とした街並みを5分程歩くと綺麗な緑の芝生の公園が現れ、その向かい側に「グループホーム杉の木」は位置している。その先には国道228号線を挟んで厳冬期に「寒中みそぎ」で有名な海が広がっている。建物は3階建て、2階と3階を利用した2ユニットの事業所である。居室は全て南側の海に面してとても明るく、廊下は地元特産の杉材を利用しており事業所内の運動会を行うほど広く、著名な作家の貼り絵や季節に応じた草花の写真が飾られ穏やかな空間を作り出している。屋上まで階段昇降機が設備され天気の良い日は海を見ながら日光浴ができるよう配慮している。運営母体は2年前に株式会社に變更し代表者は医師であり、長年認知症患者に関わり理念である地域との関係を重視し、利用者の個性を尊重した柔軟な対応で介護サービスの提供を実践している。事業所は町内で初めて開設され、当初、町内の方と利用者の関わりは少なかったが本年度開設13年目を迎え、散歩中にも気軽に声をかけてくれ、たくさんの野菜の差し入れがあり、例年夏祭りには「奴踊り」を披露しに寄ってくれるなど地域とも深い結びつきが出来上がっている。代表者が町の依頼で講演を行ったり、居宅介護事業所のマネージャーが相談に訪れるなど、認知症介護についての中心的役割を果たしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内の見やすいところに掲示しご家族、来客の方々も目にする事ができます。毎日の申し送りやホーム会議で再確認を行い実践に取り組んでいます	事業所内の各所に理念を掲示し職員の意識付けを行っている。管理者と職員は理念が介護の基本であることを念頭に置き、利用者を温かく見守りながら実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年催事にはその日の体調に合わせて参加し、ホーム主催の行事は事前に案内を掲示し地域の方々の参加を呼び掛けています	例年は夏祭りの行列が寄ってくれたり、踊りや歌のボランティアを受け入れているが今年度は感染症対策のため各種行事は中止となっている。野菜の差し入れがあり、近くの菜園まで利用者が収穫に行くときや散歩に出かけると町内の方が声をかけてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々に認知症、介護に関する不安や相談に対応できるようにしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に活動報告と意見の交換を行っています。いただいたご意見をもとにサービスの向上に努めています	年6回開催している。消防署、町内会がないため隣の町内会長、健康管理センター、家族と多数の参加があり、事業所の活動報告と意見交換を行っている。議事録は玄関前に掲示し、何時でも見ることが出来る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と密に連絡を取りサービスの質の向上と提供に努めています	町より開設を依頼され、町と一緒に立ち上げた事業所であり積極的に協力体制を築いている。居宅介護支援事業所からも相談に来るなど双方向で連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通して身体拘束に関する認識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めていますが、やむを得ない場合は御家族へ状況の説明と相談を行い、同意をいただいたときのみ行うこととしています	身体拘束をしないケアに努め、疑問のある時はその都度マニュアルで確認している。内部研修や年に一度外部研修に参加して全職員に伝達し、抑圧のない生活が出来るように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して虐待防止に関する認識の共有を図り、虐待のないケアの実践に努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め、必要とされるケースに遭遇した場合制度を活用するため関係機関と連携を深めるように体制を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時は十分な説明を行い、「何かご不明な点等ございましたらいつでも聞いてください」とお伝えしています。特に料金や起こりうるリスク、看取りの対応、医療連携について詳しく説明しご理解と同意をいただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に相談苦情について御家族に説明、要望や苦情がある時は運営者に報告、職員全体で改善に取り組み運営に反映しています	今年度は感染症の流行で面会が難しい状況であるが、利用者の顔が見える位置で会話をしたり、手袋をはめて手を握ったりと家族の会いたいという思いに応えており、個々の要望にも取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り職員の状況把握に努め、記録の確認、申し送りの意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム介護の場を活用しています	連絡ノートを朝・晩の申し送り時に確認し、ホーム会議の議事録を回覧し内容を全職員に周知している。日頃のケアの中からトロミ食を常食に変えるなど、職員の意見や提案を取り上げ運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にホームを訪れ勤務の実態を把握し、相談やアドバイスを行っています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料の配布や講習の開催、親睦のための機会を設けたり、健康診断を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望でテーマを決め事業所内研修を行っています。外部研修や報告会にはシフト変更して職員が参加できるようにし、レポートを提出してもらい他の職員も閲覧できるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会会合等で同業者と交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や面談を行い状態の把握をすともにご本人から話を伺い、ご家族や関係機関の方にも同席していただき情報を得ています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が気軽にお話できるような環境の整備と面会時に意見や要望をうかがうように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご本人の状態を報告し希望に添えるよう個別支援の検討から病院受診、主治医の変更など様々な対応を行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理の下ごしらえや味見、おやつの買い出しや散歩、会話など重ね共に生活していくことで信頼され支えあえる関係を築けるよう努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならないよう配慮の上で必要な時にご家族にも協力していただくことでそれぞれの役割を持って本人を支援しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会やなじみの場所、外出支援など入所後も今までのような交流ができるよう努めています	友人が利用者の好物を持って訪ねて来たり、馴染みの理容院へ行きカットしたり、家族と一緒に自宅に行くなど馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士でお付き合いや会話できるよう気配りして今。職員も一緒になってそれぞれの関係の把握や情報共有を徹底し入居者さん同士のトラブルを未然に防ぐよう努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方へお見舞いに行き様子をお伺いしたり、退所された方のご家族、ご親族が遊びに来たりしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかりから声をかけ、表情や態度から希望や意向を確認しています。ひとりひとりの想いを大切に対応しています	日々のケアの中から一人ひとりの思いを把握し、困難な場合は行動や表情の小さなことから本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人、ご家族に色々なことを伺い入所後も面会に来られたご家族に確認することで以前の生活状況を把握するよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話、ご家族の話などから生活歴、性格、移行を把握し、生活リズムや心理面の変化は生活記録に記載して共有し全体像の把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行っており本人、ご家族の希望を取り入れ次の計画に反映させています	本人や家族からの要望を聞き、介護計画を作成している。モニタリングやカンファレンスを重ね、介護体操を取り入れたり、利用者に合わせて朝食時間帯の幅を広げるなど現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さんそれぞれのファイルを用意し、生活記録を活用しスタッフ間で情報共有、気づいたこと、身体、精神的状況他暮らしの様子、本人の言葉を記録しそれらについて話し合いながらケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望に応じて通院、買い物、理美容院、外出外泊など対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との様々な接点を見いだせるよう周辺地域、ボランティアへの協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の月2回の訪問診療と本人ご家族が希望するかかりつけ医を利用することにより医師、家族、ホーム間の報告連絡相談を密にすることで適切な対応を行っています	代表者(医師)の月2回の訪問診療があり、常勤の看護師が日々の健康管理を行い、近所に協力医もあり医療体制は整えられている。かかりつけ医の受診は家族が同行している。	

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師がより細かく入居者の健康管理を行い本人、ご家族が安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはスタッフが付き添い医師に必要な情報を正確に提供しています。入院中スタッフが見舞いに行き本人、看護師から話を伺い現状把握に努め、退院後のケアに結びつくようスタッフ、ご家族観で連絡を取り合っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から主治医やご家族、本人と話し合い方針を統一し、状態に変化あるごとに報告相談、できる事できない事を説明し方針や支援の具体的な内容を話し合います。主治医、看護師。介護士がチームとなり本人ご家族の意向を汲み取りその人らしく過ごすため話し合いを行い支援を行っています	入居時に看取りについて確認書を交わし、重度化した場合は家族、主治医、看護師、介護職員と再度話し合い看取りに向けて支援をしている。看護師が常勤のため医師と話し合い家族の依頼で点滴を行うこともある。現在看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当やAED講習会を開き、緊急時に適切な対応ができるよう努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防、災害対策計画を定め定期的な自主検査、防災訓練及び講習を行っています。非常時にはスタッフ連絡網のほか近隣の健康管理センター職員も応援に来てくれる体制を整えています	災害訓練を年2回実施している。実際に水が出る消火器を使った訓練も行っている。隣接の健康管理センターとも非常時の協力体制を築いており、備蓄品も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行い、個人記録などは施錠できるロッカーに管理しています。スタッフの採用時には個人情報漏洩防止に関する説明を行い誓約書にサインしてもらい順守しています	トイレ誘導時は職員間で排泄内容(排尿・排便)の番号を決め、他の利用者に分からないよう配慮し尊厳を保っている。職員採用時には個人情報漏洩防止の誓約書に署名をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望要望を受け止め表情や反応も見ながら自分で物事を決定しその人らしく過ごせる支援ができるよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっていますが、その日の調子や気分に応じてその人のペースに合わせた生活ができるよう対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の希望や意思で行っていただくようにしていますが天候や体調に合わせてスタッフが助言することもあります。髪の伸び具合も見て理美容院にカットをお願いしています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを把握し個別のメニューも用意したり希望を反映した献立作りなど楽しく食事ができるように工夫しています。できる方はスタッフと一緒に下ごしらえや味付け、おやつ作りなども行っています	状況に応じてメニューを変え、利用者が食べやすい調理を行っている。本人の希望で「カツとじ」や「寿司」を出前したり、誕生日には職員手作りのケーキが用意され、彼岸にはおはぎ、運動会には稲荷寿司と煮しめなど昔からの行事食を大切に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事水分摂取量を毎日記録し、栄養のバランスに注意して献立を考えています。それぞれの状態に合わせて味付けや盛り付け方、量の増減、刻みやとろみをつけたり工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄、口腔内の観察を声掛けまたは介助で行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態によって日中パンツ、夜おむつで排泄したり、夜間だけポータブルトイレ使用したり、適時排泄の声掛けや誘導、確認を行うなど快適に排泄ができるよう支援しています	排泄パターンを把握して日中は布パンツやパッドを利用し、声がけや誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレや尿器を使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、水分補給。無理のない範囲での運動などでできるだけ自然排便できるよう支援しています。下剤が必要な場合は主治医と連絡を取り指示の下で服薬しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間に入浴できるよう勤めていますが、入りたくないときは時間をおいたり翌日にすることで対応しています。入浴前はバイタルを確認し異常がないことを確認してから入浴しています	可動式浴槽を設置し、入居者の状態に応じ左右どちらでも介助できるよう配慮している。入浴を拒む場合は好きな歌を歌いながら移動したり、民謡をかけた、入浴剤を使用したりと個々に沿った支援をし、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの理由はあると思いますが日中の活動を通して不安感をなくしゆっくり休めるようにしています。室温や部屋の明るさも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれに薬箱を用意し名前日付食前食後など記入し薬箱に入れたときに確認と服薬前にも確認し飲み忘れや誤薬を防いでいます。処方箋はスタッフがいつでも内容を把握できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、ちょっとしたお手伝いや軽い作業などそれぞれに合ったものを生活の中から探し出し一緒にいたり楽しんだり感謝の言葉を伝えています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は買い物や散歩に出かけたり、ご家族と外出や受診、地域のイベントを見に出かけたりしています	家族とは受診や外出をしているが今年は感染症対策のため遠出は難しく、事業所の菜園に出かけ収穫したり、嗜好品購入のため近所に買い物や向かいの公園へ散歩に出かけるなど個人の希望に添って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の希望で大半の方は施設で厳重に管理していますが、それぞれの能力にあわせ少額なら管理できる方にはご家族と相談のうえで自身で管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で行うことが困難な方にはスタッフが電話を掛けてたり、手紙の代筆を行っています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや小物の作成、植物の水やりを一緒に行ったりしています。施設内は天候、温度、湿度に合わせてカーテンや窓、暖房を調節し、共用空間はこまめに清掃し快適に過ごせるよう配慮しています	広い廊下の先に掘りごたつがありテレビ鑑賞ができる、のんびりとした空間が用意されている。廊下や居間には季節の写真が飾られ落ち着いた雰囲気となっている。洗面所の高さは入居者の状態に応じて調節でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は自由に共有空間を利用でき、同じように自室で過ごしています。長く部屋にいるときはスタッフがさりげなく見守りしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはいくつか使い慣れたなじみの深い物品を用意してもらうようお願いしています。家具等は災害発生時に部屋の入り口をふさがないように本人ご家族と相談し配置しています。その他必要な場合は施設の家財道具を貸し出したりしています	全室南向きの部屋は日当たりがよく、明るく海が見える。入居時に馴染みのものを持参してもらい心地よい居室となるよう配慮し、夫婦で入居されている利用者は一つの部屋にベッドを並べて使用するなど使い易いように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや部屋の入り口に目印をつけたり、食事は高さの違う椅子やテーブルを用意したりとそれぞれの生活にあわせた環境作りを行っています		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム 杉の木 3階ユニット		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町704		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 24時間医療連携がとれる体制を整えている 地域の食材、特に旬の物を利用した手作りの料理を提供している 介護が画一的にならないように個々の入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心掛けている ご家族様も参加できるような催し物を企画、開催している 地域の方々が催し物へのお誘いや家庭菜園の手入れなどで協力して下さる 内装は地元の杉材を利用し、落ち着いた雰囲気統一している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0191513704-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内の見やすいところに掲示しご家族、来客の方々も目にすることができます。毎日の申し送りやホーム会議で再確認を行い実践に取り組んでいます		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年催事にはその日の体調に合わせて参加し、ホーム主催の行事は事前に案内を掲示し地域の方々の参加を呼び掛けています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々に認知症、介護に関する不安や相談に対応できるようにしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に活動報告と意見の交換を行っています。いただいたご意見をもとにサービスの向上に努めています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と密に連絡を取りサービスの質の向上と提供に努めています		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通して身体拘束に関する認識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めていますが、やむを得ない場合は御家族へ状況の説明と相談を行い、同意をいただいたときのみ行うこととしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して虐待防止に関する認識の共有を図り、虐待のないケアの実践に努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め、必要とされるケースに遭遇した場合制度を活用するため関係機関と連携を深めるように体制を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時は十分な説明を行い、「何かご不明な点等ございましたらいつでも聞いてください」とお伝えしています。特に料金や起こりうるリスク、看取りの対応、医療連携について詳しく説明しご理解と同意をいただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に相談苦情について御家族に説明、要望や苦情がある時は運営者に報告、職員全体で改善に取り組み運営に反映しています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り職員の状況把握に努め、記録の確認、申し送りの意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム介護の場を活用しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にホームを訪れ勤務の実態を把握し、相談やアドバイスを行っています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料の配布や講習の開催、親睦のための機会を設けたり、健康診断を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望でテーマを決め事業所内研修を行っています。外部研修や報告会にはシフト変更して職員が参加できるようにし、レポートを提出してもらい他の職員も閲覧できるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会会合等で同業者と交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や面談を行い状態の把握をすともにご本人から話を伺い、ご家族や関係機関の方にも同席していただき情報を得ています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が気軽にお話できるような環境の整備と面会時に意見や要望をうかがうように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご本人の状態を報告し希望に添えるよう個別支援の検討から病院受診、主治医の変更など様々な対応を行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理の下ごしらえや味見、おやつの買い出しや散歩、会話など重ね共に生活していくことで信頼され支えあえる関係を築けるよう努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならないよう配慮の上で必要な時にご家族にも協力していただくことでそれぞれの役割を持って本人を支援しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会やなじみの場所、外出支援など入所後も今までのような交流ができるよう努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士でお付き合いや会話できるよう気配りして今。職員も一緒になってそれぞれの関係の把握や情報共有を徹底し入居者さん同士のトラブルを未然に防ぐよう努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方へお見舞いに行き様子をお伺いしたり、退所された方のご家族、ご親族が遊びに来たりしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりから声をかけ、表情や態度から希望や意向を確認しています。ひとりひとりの想いを大切に対応しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人、ご家族に色々なことを伺い入所後も面会に来られたご家族に確認することで以前の生活状況を把握するよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話、ご家族の話などから生活歴、性格、移行を把握し、生活リズムや心理面の変化は生活記録に記載して共有し全体像の把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行っており本人、ご家族の希望を取り入れ次の計画に反映させています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さんそれぞれのファイルを用意し、生活記録を活用しスタッフ間で情報共有、気づいたこと、身体、精神的状況他暮らしの様子、本人の言葉を記録しそれらについて話し合いながらケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望に応じて通院、買い物、理美容院、外出外泊など対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との様々な接点を見いだせるよう周辺地域、ボランティアへの協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の月2回の訪問診療と本人ご家族が希望するかかりつけ医を利用することにより医師、家族、ホーム間の報告連絡相談を密にすることで適切な対応を行っています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師がより細かく入居者の健康管理を行い本人、ご家族が安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはスタッフが付き添い医師に必要な情報を正確に提供しています。入院中スタッフが見舞いに行き本人、看護師から話を伺い現状把握に努め、退院後のケアに結び付くようスタッフ、ご家族観で連絡を取り合っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から主治医やご家族、本人と話し合い方針を統一し、状態に変化あるごとに報告相談、できる事できない事を説明し方針や支援の具体的な内容を話し合います。主治医、看護師、介護士がチームとなり本人ご家族の意向を汲み取りその人らしく過ごすため話し合いを行い支援を行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当やAED講習会を開き、緊急時に適切な対応ができるよう努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防、災害対策計画を定め定期的な自主検査、防災訓練及び講習を行っています。非常時にはスタッフ連絡網のほか近隣の健康管理センター職員も応援に来てくれる体制を整えています		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行い、個人記録などは施錠できるロッカーに管理しています。スタッフの採用時には個人情報漏洩防止に関する説明を行い誓約書にサインしてもらい順守しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望要望を受け止め表情や反応も見ながら自分で物事を決定しその人らしく過ごせる支援ができるよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっていますが、その日の調子や気分に応じその人のペースに合わせた生活ができるよう対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の希望や意思で行っていただくようにしていますが天候や体調に合わせスタッフが助言することもあります。髪の伸び具合も見て理美容院にカットをお願いしています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを把握し個別のメニューも用意したり希望を反映した献立作りなど楽しく食事ができるように工夫しています。できる方はスタッフと一緒に下ごしらえや味付け、おやつ作りなども行っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事水分摂取量を毎日記録し、栄養のバランスに注意して献立を考えています。それぞれの状態に合わせて味付けや盛り付け方、量の増減、刻みやとろみをつけたり工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄、口腔内の観察を声掛けまたは介助で行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態によって日中パンツ、夜おむつで排泄したり、夜間だけポータブルトイレ使用したり、適時排泄の声掛けや誘導、確認を行うなど快適に排泄ができるよう支援しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、水分補給。無理のない範囲での運動などでできるだけ自然排便できるように支援しています。下剤が必要な場合は主治医と連絡を取り指示の下で服薬しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間に入浴できるよう勤めていますが、入りたくないときは時間をおいたり翌日にすることで対応しています。入浴前はバイタルを確認し異常がないことを確認してから入浴しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの理由はあると思いますが日中の活動を通して不安感をなくしゆっくり休めるようにしています。室温や部屋の明るさも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれに薬箱を用意し名前日付食前食後など記入し薬箱に入れたときに確認と服薬前にも確認し飲み忘れや誤薬を防いでいます。処方箋はスタッフがいつでも内容を把握できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、ちょっとしたお手伝いや軽い作業などそれぞれに合ったものを生活の中から探し出し一緒にいたり楽しんだり感謝の言葉を伝えています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は買い物や散歩に出かけたり、ご家族と外出や受診、地域のイベントを見に出かけたりしています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の希望で大半の方は施設で厳重に管理していますが、それぞれの能力にあわせ少額なら管理できる方にはご家族と相談のうえで自身で管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で行うことが困難な方にはスタッフが電話を掛けてたり、手紙の代筆を行っています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや小物の作成、植物の水やりを一緒に行ったりしています。施設内は天候、温度、湿度に合わせてカーテンや窓、暖房を調節し、共用空間はこまめに清掃し快適に過ごせるよう配慮しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は自由に共有空間を利用でき、同じように自室で過ごしています。長く部屋にいるときはスタッフがさりげなく見守りしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはいくつか使い慣れたなじみの深い物品を用意してもらうようお願いしています。家具等は災害発生時に部屋の入り口をふさがないように本人ご家族と相談し配置しています。その他必要な場合は施設の家財道具を貸し出したりしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや部屋の入り口に目印をつけたり、食事は高さの違う椅子やテーブルを用意したりとそれぞれの生活にあわせた環境作りを行っています		

目標達成計画

事業所名 グループホーム杉の木

作成日：令和 2年 10月 29日

市町村受理日：令和 2年 10月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20,49	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためにやむをえずホームの出入りを制限し、その結果外出や面会の機会が減っている	新型コロナウイルス感染症のホーム内感染を抑え、終息した場合はすみやかに外出、面会制限を以前の水準に戻す	現在行っている感染症対策(以下)の継続、徹底 ・出勤・退勤時の体温測定、定期的な感染対策研修 ・玄関前に感染症対策の協力のお願いを掲示 ・面会は玄関前でビニールカーテン越しに行う ・面会で施設内に入る場合は検温で発熱なしを確認後、手指消毒、マスク着用をお願いする	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。